

長期金利 上昇に拍車

株高で一時的0.92%

日銀、歯止めめに動く

大量資金供給 市場なお警戒

長期金利の上昇が続いている。15日は長期金利が約1年ぶりの水準をつけた。資金が債券から株などの資産に移るといふ市場の思惑が背景にある。景気の持ち直しを反映した動きだが、急激な金利上昇に対する市場の警戒感も強く、社債の発行延期など波紋も生じている。足元の市場の混乱を抑えるため、日銀も対応に追われている。



日銀総裁の黒田東彦(15日、参院予備会)。

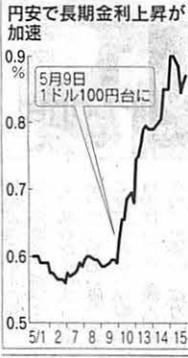
長期金利の指標となる「乱高下を懸念して、銀行が保有国債を手放している」と(外国系証券)。金利は15日、一時前日比0.075%高い0.920%まで上昇(価格は下落)した。2012年4月以来、1年1カ月ぶりの高水準となった。さらに利回り上昇が目立つのが5年物国債で、同0.06%高い0.455%まで一時上昇。約2年ぶりの高水準を付けた。

銀行が国債売却

債券売りを主導したのは国内銀行だ。一相場の新発行額を7割相当を買い入れ、国債の利回りが長期金利を低下させるのが狙いだ。

長期金利の上昇を受け、企業資金調達にもじわりと影響が及ぶ

4月に日銀が打ち出した量的・質的金融緩和は債券市場を通じて国債の新発行額を7割相当を買い入れ、国債の利回りが長期金利を低下させるのが狙いだ。



円安で長期金利上昇が加速

長期金利の上昇を受け、企業資金調達にもじわりと影響が及ぶ。15日までにJFEホールディングスや豊田自動織機などが準備していた社債発行を延期する見通しとなった。社債金利は長期金利に連動する。当初見込んでいたような低利発行が難しくなったためだ。

社債発行を延期

JFEや豊田自動織機

豊田織機は近年限が7年、東邦ガスも延期の方針だ。年10年の社債を発行する。社債金利は長期金利を基準に決まるため、企業にとり「長期金利の上昇」は調達コスト増に繋がると見られる。現在の金利急上昇が「同社」という。借り手も「一時的なものを見極めたうえで」(同社)という。借り手も「一時的なものを見極めたうえで」(同社)という。借り手も「一時的なものを見極めたうえで」(同社)という。借り手も「一時的なものを見極めたうえで」(同社)という。

オベ「対症療法」

物価が上昇し、景気が良くなれば金利が上がるのは自然な現象だ。黒田は緩和で市場のインフレ期待が高まっている証拠と見られる。

識者の見方

自然な流れ
みずほ総合研究所・高田創子(エコノミスト)は「金利の上昇は好ましくない。金融緩和は長期金利を引き下げる目的だったが、逆のことが起きている。逆のことが起きている。逆のことが起きている。逆のことが起きている。」

好ましくない

法政大・小黒一正准教授は「今起きている金利上昇は好ましくない。金融緩和は長期金利を引き下げる目的だったが、逆のことが起きている。逆のことが起きている。逆のことが起きている。逆のことが起きている。」

市場を満ちし、不安心理を和らげるのが狙いだ。その効果で金利上昇には一応歯止めがかかった。ただ、市場では日銀の市場調節は対症療法。インフレ率を高める政策に従って金利上昇圧力は残る。(三井住友アセットマネジメントの深代潤シニアアドバイザー)との指摘が聞かれた。

市場を満ちし、不安心理を和らげるのが狙いだ。その効果で金利上昇には一応歯止めがかかった。ただ、市場では日銀の市場調節は対症療法。インフレ率を高める政策に従って金利上昇圧力は残る。(三井住友アセットマネジメントの深代潤シニアアドバイザー)との指摘が聞かれた。